



第1回エネルギーセミナー

わかりやすく学ぶエネルギースクール

◎本紙面は2024年6月19日(水)に開催された、オンラインセミナーの講演から抜粋・再構成しています。

(グリーン・トランスフォーメーション)

# GX基本方針と次期エネルギー基本計画について学ぶ



PR

福井県環境・エネルギー懇話会では昨年度に続き、エネルギーや環境問題をめぐる現状と課題を整理し、体系的に学ぶ3回シリーズのセミナーを実施しています。第1回は、政府の「GX実行会議」委員も務めるメイン講師の竹内純子氏に加え、ゲスト講師を招き、GX基本方針と次期エネルギー基本計画について学びました。

講演 1

## GX基本方針と次期エネルギー基本計画を巡る現況

メイン講師



たけうち すみこ  
竹内 純子氏  
NPO法人  
国際環境経済研究所  
理事 主席研究員

GXの根幹はエネルギー問題

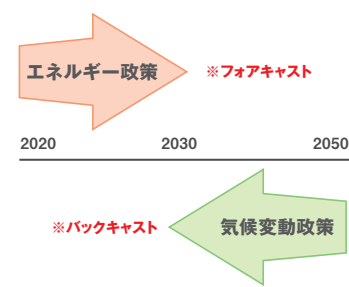
政府は、GX(グリーン・トランスフォーメーション)を主要政策として掲げています。世界のCO<sub>2</sub>排出量は増加し続けていますが、年限を区切ったカーボンニュートラルを目指す国・地域のGDPは世界全体の約94%にもなりません。世界を市場とするグリーン産業を強化することで、競争力を高め、経済成長することを目指しているのです。

気候変動政策が、2050年のカーボンニュートラルという、あるべき姿からやるべきことを導き出す「バックキャスト」で策定するのに対し、エネルギー政策は安定供給を確保するための現実的に即し、「フォアキャスト」で策定します。

第7次エネルギー基本計画の策定に向けた議論がスタートしました。パリ協定のもとで提出する新たなCO<sub>2</sub>削減目標は、現在の2030年46%減からさらに野心的なものになると想定されま

が、その目標と整合性のあるエネルギーミックスを描くことは極めて難しいといえるでしょう。化石燃料の利用を極端に抑えた計画を描けば、リスクになります。政府も「単一の前提ありきで、エネルギーミックス(電源構成)の数字を示す手法には限界がある」としています。

### エネルギー政策と気候変動政策の違い



電力需要の増加と原子力発電の活用

日本の電力需要が上昇に転じています。AI活用に伴うデータセンターへの投資が急増する見込であること、そして気候変動対策として電化が進めば、さらに電力需要は急速に増加するでしょう。データセンターの急速かつ地点特定の電力需要の増加に対応できるの

講演 2

## GXの進展と、暮らしや産業の今後を考える

ゲスト講師



いしかわ かずお  
石川 和男氏  
社会保障経済研究所  
代表

原子力再稼働で化石燃料の代替

国のエネルギー基本計画の改定やGXやDXにまつわる補助金などによって、私たちの暮らしや産業は短期的・中長期的にどうなっていくのでしょうか。

今一番気になるのは、電気代ではないでしょうか。本年6月の電気・ガス料金は、政府の補助金が終了した影響で前月よりも値上がりしています。その中、原子力発電の再稼働が始まっている、九州電力と関西電力の電気料金は比較的安いことが分かります。原子力が動いていると、化石燃料分を大量に代替してくれるからです。

日本の主力エネルギーである化石燃料の直近の数字を見てみると、燃料価格の高騰と急激な円安が重なり、その輸入額は増加しています。日本の国富が海外に流出しているの

### 7月請求分(6月使用分)の電気・都市ガス料金

地域	7月請求分			前年同月との差			
	請求分	前月の差	前年同月の差	請求分	前月の差	前年同月の差	
北海道電力	9523	409	1401	四国電力	8596	460	1440
東北電力	8855	419	1318	九州電力	7551	450	2300
東京電力	8930	392	1544	沖縄電力	9663	616	1571
中部電力	8691	346	1746	東京ガス	5977	121	601
北陸電力	7758	402	1158	大阪ガス	6529	121	599
関西電力	7664	468	2428	東邦ガス	6795	117	256
中国電力	8514	453	1070	西部ガス	6672	95	463

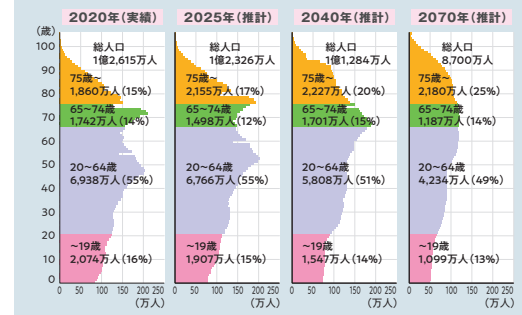
https://www.asahi.com/asagakuplus/article/asasho/15290919

が見て取れ、原子力再稼働などエネルギー危機に強い供給態勢への回帰が必要です。

### GXの利用方法と未来に向けた課題

次にGXです。日本は2050年のカーボンニュートラルに向け、頑張っでCO<sub>2</sub>削減を進めています。今のところ日本が世界で一番真面目といえるのですが、数学的な視点から考えると、世界で3%のCO<sub>2</sub>を排出している日本の頑張りには限りがあります。むしろ、日本の省エネ技術や脱炭素・低炭素技術を海外に技術供与することが、世界のCO<sub>2</sub>削減につながると思います。

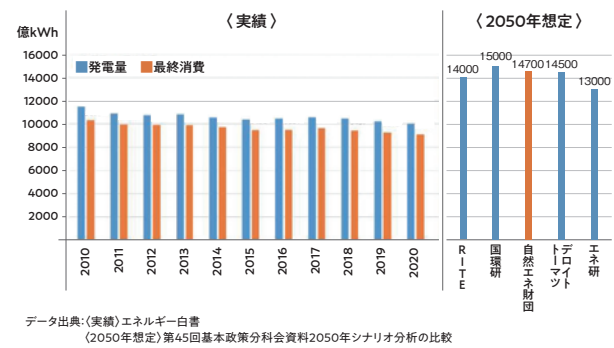
### 人口ピラミッド(2020年~2070年)



https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/22/dl/1-01.pdf

こうした視点で、GXを「節電や貢献といった我慢・忍耐」でなく、外貨獲得増のための「企業価値向上剤」や「環境に優しい需要(商品・サービス)の喚起剤」、さらには「対内直接投資促進剤」として利用すべきです。最後に、気になる数字を見ていきましょう。日本における少子化・高齢化率の進展です。人生100年時代を生きるためには、電気などのエネルギーコストを下げるのが、私たちの持続可能な生活にとって非常に重要であることが分かります。その一方で、GXやDXにより電力需要は増え続けていくと予想されます。そんな課題を踏まえ、どんなエネルギーミックス(電源構成)が必要なのか。次期のエネルギー基本計画で改めて考えていきたいと思います。

### 電力需要の動向



データ出典: (実績) エネルギー白書 (2050年想定) 第45回基本政策分科会資料2050年シナリオ分析の比較

は、既存の原子力発電の再稼働と言われています。洋上風力や地熱発電は開発に時間がかかります。さらにデジタル化、GX化が2030年代以降も進めば、原発の新増設も必要になる可能性もあります。GX実行会議で岸田首相が、「新増設も含めて検討する」と発言をするなど、原子力事業を見直す議論がされています。しかし、その活用に向けては、原子力安全規制の見直し、バックエンド問題や原子力損害賠償制度の解決、立地地域の理解と同意の確保などが必要で、政府のより強いコミットメントが求められます。GX、DXの実現に向け、原子力利用の適正化に向けた議論を急がねばなりません。

※今回ならびに過去のセミナー内容は当会ホームページにてご覧いただけます。https://www.fukui-kan-ene.net

第2回エネルギーセミナー 予告

10月頃を予定しています。詳細はホームページでご案内いたします。ホームページより申し込みください。

お申し込みはこちら



主催 福井県環境・エネルギー懇話会  
TEL.0776-33-7050 〒918-8004 福井市西木田2-8-1 福井商工会議所ビル6F

共催 福井県経済団体連合会  
福井商工会議所